

支え合うプラン取組推進事業の開始について

地域共生社会の実現に向け、今年度から「支え合うプラン取組推進事業」を実施します。以下の通り受託者が決定し、事業を開始しました。

1 事業目的

くるめ支え合うプランに掲げる「支え合うところあふれるまち くるめ」の実現のため、フォーマルサービスとインフォーマルサービスの両輪で支え合う仕組みづくりを進めています。この事業では、様々な課題を抱えながらも、住民が自分たちで暮らしを支え合っているような関係性を幅広い世代で育み、それを持続できる方策を企画・実践していきます。

2 受託者と契約期間

(1) 受託者

チエツク プロジェクト
Chietsuku Project・社会福祉法人 拓く共同事業体

(2) 契約期間

令和3年6月7日から令和4年3月31日

3 事業の内容

課題が多様化・複雑化した地域社会に「未来に目を向けた新たな価値観」を生み出し、「久留米らしい支え合いの文化」を育むプラットフォーム（関わり、交じり合う場や機会）を創造します。受託者は、福祉分野とまちづくり分野から領域を超えて共同体を結成。独自の視点や発想、それぞれの立場からの対話を生かし、同プランに記載している課題の解決を目指します。

【具体的な取り組み】

- *企画会議「新地福委員会」：上記事業の全体を俯瞰し、方向性を企画・検討する。受託者や市に加え、地域のさまざまな人や団体など、多世代・多業種で対話。地域福祉に大切な視点の可視化と言語化を行い、多くの人と共有できる方法を見出す
- *プラットフォーム未来会議：次世代を担う若者（児童・生徒・学生）と地域の企業や団体・場とをつなぎ、悩みや問題意識、感性を共有。どうすれば若者に響き共感を生むことができるかを共に考え、アクションにつなげる
- *みんなのもしも：「支え合いの場や機会」に自分ごととして関わる人が増えるよう、「防災」「感染症」を題材に対話を深めるプラットフォームづくりを推進
- *地福 TV：各事業の発信と交流をオンラインで行う。情報を伝播して関わる人を増やし、実感と共感を連鎖させることが狙い。久留米発のオンライン交流企画「くるめオンライン公民館」と事業連携

【参考】受託者による事業説明スライド（一部抜粋）

1. 推進メニューの提案・創出 (P2-3)
 (1) 企画提案の背景

① 令和3年度支え合うプラン取組推進事業業務の目的

支え合う文化の醸成

久留米の豊かな社会資源や地域性を活かした
 支え合う文化の醸成を促す
 久留米らしいプラットフォームを生み出すこと。

1. 推進メニューの提案・創出 (P4)
 (2) プラットフォーム構築のコンセプト

① 新創造プラットフォーム「地域福祉NEO」

発想・視点
 概念・思考

3つのNEO

地域福祉に根を × **地域福祉ネオ** × **地域福祉に本音を**

この街に住み関わる人達が、
 混ざり合う中で
 実感が生まれていく

この街に住み関わる人達が
 暮らしの課題や習慣、
 希望や幸福感を更新していく

この街に住み関わる人達が、
 本音を伝え合えることで
 生まれる

自分ごとの
 支え合い

進化する
 支え合い

深まる
 支え合い

×

くるめ支え合うプラン

実践

1. 推進メニューの提案・創出 (P5)
 (3) 事業の企画提案

① 事業スキーム

概念

本音を 「深まる支え合い」
 本音を伝え合えることで生まれる支え合い

地域福祉
 NEO

ネオ 「進化する支え合い」
 暮らしの課題や習慣、希望や幸福感を更新していく

根を 「自分ごとの支え合い」
 混ざり合う中で実感が生まれていく

具現化

目標

久留米らしい「支え合う文化」の醸成

- 多様な主体の意識の向上
- 多様な関わり方の推進
- 活動の越境と拡張
- 潜在的可能性の創出
- 未来をつくる人材育成

事業概要

つたえるプラットフォーム

4 地福TV

そなえるプラットフォーム

3 みんなのもしも

はぐくむプラットフォーム

2 プラットフォーム未来会議

1 地域福祉NEO実行委員会

1. 推進メニューの提案・創出 (P5)
 (3) 事業の企画提案

② 実施する事業内容

地域福祉NEOを生み出す

4つの実施事業

事業概要

つたえるプラットフォーム

4 地福TV

そなえるプラットフォーム

3 みんなのもしも

はぐくむプラットフォーム

2 プラットフォーム未来会議

1 地域福祉NEO実行委員会

1. つたえる「新地福委員会」 **運営チーム**
2. はぐくむ「プラットフォーム未来会議」 **若者**
3. そなえる「みんなのもしも」 **防災・感染症対策**
4. つたえる「地福TV」 **オンライン公民館型**